



料金後納

ゆうメール

世田谷パブリックシアター SETAGAYA PUBLIC THEATRE

学芸プログラム 通信 No.12 2022年4~6月号

4月から新年度が始まりました。今年度から世田谷パブリックシアターの芸術監督に就任いたしました白井晃です。どうぞよろしくお願いたします。

今年は、春から寒暖差が激しく外出するのも衣服を選ぶのにも困っていましたが、7月に入ってうだるような暑さに体調管理も難しい日々ですね。皆さんお元気で過ごしてはいかがでしょうか？

私たちが運営する劇場は、この2年余り大変な苦難に直面してきました。まだまだ予断は許しませんが、ようやく私たちの生活の中にも日常が戻ってきそうです。4月に開催された下馬地区の「おたがいさまフェスタ」(世田谷ボランティア協会主催)では、高次脳機能障害の方の人生を演劇にした「ともにゃの部屋」を上演しました。たくさんの方が参加をしてくださり改めて地域で共に生きることを感じあってもらうことができたように思います。そして、5月には「ゆうじさんちシアター」を開催して、障害者の方とその生活を支える介助者の皆さんの生活を参加者の皆さんと共に共有することができたと思います。さらに、世田谷区内の小・中学校を巡回する「かなりゴキゲンなV/S巡回団」は今年度の募集を開始し、過去2年と比べてお申込みも増えてきました。感染予防を講じながら万全の体制で実施してまいります。

7月からは、学校の夏休みも踏まえてたくさんのワークショップが劇場で開催されます。少しずつではありますが、私たちはこれまでも歩みを止めることなく活動を続けてきました。私たちは、他者と触れ合うことで自分自身を発見することができるものです。たくさんの方さんと出会いを作ることで、その発見はより広まっていくと思います。

今後とも私たちの活動にご支援くださいますよう、よろしくお願いたします。



2022年7月 世田谷パブリックシアター・芸術監督 白井晃

7月8月のピックアップニュース 6月30日時点

*WS=ワークショップの略

子ども	7月21日(木)~8月29日(月)	せたがやこどもプロジェクト2022《ワークショップ編》夏休み 「小学生のためのえんげきワークショップ」 「中学生のためのえんげきワークショップ」 「高校生のためのえんげきワークショップ」 ・小学生11コース、中学生2コース、高校生1コース(全14コース)	劇場で行う子どものための演劇WS
	7月26日(火)、28日(木)、8月1日(月) 【舞台稽古】8月3日(水) 【発表会】8月4日(木)	せたがやこどもプロジェクト2022《ステージ編》 夏の劇場・りんかん学校「流星スプーン」 ・小学生4年生~6年生	芸術監督・白井晃と子どもたちで創る演劇プロジェクト
	8月27日(土)	世田谷パブリックシアター演劇部 中学生の部 ~区大会編~	中学生のための演劇WS
区民参加	7月16日(土)	「デイ・イン・ザ・シアター」身体にまつわる~エトセトラ編~	劇場で行う誰でも参加できる短時間のWS
	8月21日(日)	「デイ・イン・ザ・シアター」めでたしめでたしのそのあと	劇場で行う誰でも参加できる短時間のWS
地域連携	7月6日(水)~8日(金)	かなりゴキゲンなWS巡回団@桜丘中学校2年生	区内小中学校訪問WS:依頼毎
	7月14日(木)	下馬地区アートプロジェクト「だれでも写真クラブ・極楽」	高齢者のための居場所づくり
	7月14日(木)	かなりゴキゲンな WS 巡回団@駒沢中学校 2年生	区内小中学校訪問WS:依頼毎
	7月26日(火)	世田谷区立中学校教育研究会	先生のための演劇WS
専門家育成	7月1日(金)、7月15日(金)	「まずは“その背景”を知ろう ~障害とは? 福祉とは? ~ SPT ラボラトリーゼミ」(対象:ゼミ生)(全2回)	演劇WS専門家育成
	7月29日(金)、8月5日(金)	「『障害』に出会う~幻聴妄想かるたから『障害』を考える~ SPT ラボラトリーゼミ」(全2回)	演劇WS専門家育成
	7月31日(日)	SPT ラボラトリー 定例会	演劇WS専門家育成

2022年4月～6月学芸事業一覧

子ども …… 子どものためのプログラム 区民参加 …… 世田谷区民、その他一般参加者のためのプログラム
地域連携 …… 区内施設、NPO他と協力して実施するプログラム 専門委員会 …… レクチャーや人材育成の取組

- 4月**
- 5日(火) ● 「デイ・イン・ザ・シアター」1日限りの「演劇&劇場」体験WS ① 区民参加 ……
12:00～15:30「25回目の劇場のお誕生日程」(進行役:すずきこた)
1997年の開場以来、4月5日の「劇場誕生日」には特別な「デイ・イン・ザ・シアター」を企画している。今年は、開場25周年を記念して、作品を作り続ける劇場の裏側も探検するバックステージツアーを盛り込んだWSとなった。
 - 9日(土) ● 演劇WSラボ「キックオフミーティング」13:00～16:00 専門委員会 レポート
専門家育成事業として、演劇と劇場の可能性について思考/実験する場「SPTラボラトリー」を設定し、その中で「演劇WS」をテーマにした「演劇WSラボ」を展開している。その「キックオフミーティング」では、ラボの研究員である実践者や学生らが一堂に集い、自分たちの関心や課題を共有した。ここから協同して課題を探索するための自主クラブが6つ立ち上がり、今年度の活動が本格的に始動することになった。
 - 23日(日) ● おたがいさまフェスタ@世田谷ボランティアセンター 地域連携 レポート
11:00～「ともにやの部屋～中川陽子さん」(進行役:大道朋栄)
13:30～「ともにやの部屋～黒田真史さん」(進行役:大道朋栄)
 - 28日(金) ● フリーステージ 区民参加
1997年の開場以来、世田谷区民を中心とした舞台芸術活動を行う文化団体に、表現の場として劇場を提供している恒例のイベント。今年度は、世田谷区民団体44組(世田谷クラシックバレエ連盟、音楽部門、ダンス部門)が参加し、劇場スタッフと協働で舞台を繰り広げた。
「世田谷クラシックバレエ連盟」
- 5月**
- 29日(土) ● 「音楽部門」
 - 3日(祝) ● 「ダンス部門」
 - 4日(祝)
 - 5日(祝)
 - 13日(金) ● 演劇WSラボ「おやこふしぎ発見クラブ」① 専門委員会
 - 15日(日) ● 演劇WSラボ「レクチャー」「応用演劇とはなにか」13:00～16:00 専門委員会
「演劇WSラボ」は、研究員たちが演劇WSの研究や実験、開発を行っていくためのレクチャーやゼミを開催しており、そのプログラムの一部は一般公開している。今回のレクチャーは「応用演劇」の歴史とその世界の広がりを紐解きつつ、それらの関係の中から「演劇WS」や、受講者自身の活動について捉え直す場となった。
 - 演劇WSラボ「学校に行けない/行かない子ども達のための演劇WSクラブ」① 専門委員会
 - 21日(土) ● 「デイ・イン・ザ・シアター」1日限りの「演劇&劇場」体験WS①② 区民参加 ……
13:00～15:00「演劇でひろがる本の世界編(だれでもデイ)」(進行役:田崎英)
17:00～19:00「演劇でひろがる本の世界編(おとなデイ)」(進行役:田崎英)



大道具などを運ぶ搬入エレベーター、大道具や小道具をつくる叩き場、衣装を制作する衣装部屋、音楽や声を録音・編集するミキシングルーム。普段は見ることができない劇場の裏側にはたくさんのハテナ?や驚きがあり、こんなふうな舞台づくりに関わっているんだ!という発見がたくさんあったようです。ツアーのあと、それぞれ印象に残っているお話や場所を絵に書き、グループで演劇に立ち上げました。最後に、ハッピーバースデーの歌を歌って、楽しい劇場のお誕生日となりました。



「本の帯」にある文章から、この帯で紹介している物語の中身を想像し、みんなの想像した物語をグループで演じました。「この世はいろんな“デート”で溢れている。」という帯を見たグループは、タイトルを「ハート図鑑」と想像。嬉しいハート、悲しいハート…など、いろいろなハートが出てくる物語を体で表現しました。



- 6月**
- 22日(日) ● 演劇WSラボ「グリーンフェアクラブ」① 専門委員会
 - 25日(水) ● 演劇WSラボ「コーディネーションマインド・スキルをシェアするクラブ」① 専門委員会
 - 28日(土) ● 参加型演劇「介助と障害を巡る旅～ゆうじさんシアター」 地域連携 レポート
28日:①14:00～②15:30～
29日:③11:00～④12:30～⑤14:00～⑥15:30～⑦17:00～
下馬地区で自立生活を行う重度脳性麻痺者の実方裕二さん(ゆうじさん)とその介助者を巡るツアーパフォーマンス「ゆうじさんシアター」。生と死をテーマとした下馬地区アートプロジェクト「極楽フェス21」で大変好評を得た初演(21年9月)の再演となる。初演時は、ゆうじさん自身が捉えている「老い」への想いが浮き立ってくるものとなったが、再演となる今回は、ゆうじさんと介助者との「関係性」についてより分け入っていく内容となった。
 - 4日(土) ● 演劇WSラボ「おやこふしぎ発見クラブ」②お試し会 専門委員会
 - 5日(日) ● 演劇WSラボ「感想クラブ」① 専門委員会
 - 8日(水) ● 世田谷区小学校教育研究会児童文化部 実技研修 地域連携
14:30～16:30(進行役:すずきこた)
 - 8日(水) ● かなりごきげんなWS巡回団@笹原小学校集団活動「目の教室」 地域連携
 - 12日(日) ● 演劇WSラボ「学校に行けない/行かない子ども達のための演劇WSクラブ」② 専門委員会
 - 16日(木) ● 下馬地区アートプロジェクト「だれでも写真クラブ・極楽」 地域連携 ……
14:00～16:00「写真日記編」(進行役:金川晋吾)
2019年度より、アートを通じた高齢者の居場所づくりを目的に始動。単発で開催していたが、20年度より連続プログラムも実施し、最後には作品発表の場も設けている。現在はあんしんすこやかセンターと連携して行い、その相談窓口でも当クラブが紹介されている。写真に興味のある方のみならず、家族を亡くして孤立している、話し相手がない、といった相談者が個人とつながる場として機能している。
 - 16日(木) ● 演劇WSラボ「コーディネーションマインド・スキルをシェアするクラブ」② 専門委員会
 - 19日(日) ● 演劇WSラボ「グリーンフェアクラブ」② 専門委員会
 - 世田谷パブリックシアター中学生演劇部(6月) 子ども ……
14:00～17:00(進行役:オノマリコ)
 - 26日(日) ● 「デイ・イン・ザ・シアター」1日限りの「演劇&劇場」体験WS①② 区民参加 ……
10:30～12:30「おにぎりわたし編(はじめての人デイ)」(進行役:大道朋栄)
15:00～17:00「おにぎりわたし編(だれでもデイ)」(進行役:大道朋栄)
 - 30日(木) ● 下馬地区アートプロジェクト「だれでも写真クラブ・極楽」 地域連携
14:00～16:00「写真日記編」(進行役:金川晋吾)

「世田谷区小学校教育研究会」からの依頼を受け、先生方への実技研修を行い、学級での隙間時間や異年齢集団で楽しめるシアターゲームや、ものの形を身体で表現する活動を紹介しました。



2022年度写真クラブ・極楽が始まり、これから9月まで5回にわたり活動していきます。初回は、まず、近くの公園で撮影した後、写真を見合いました。「紫陽花」「遊んでいる子どもたち」「樹の根っこ」など、同じ場所でも興味はそれぞれ。「子どもたちを撮影したいけど、最近ではダメだね」という言葉をきっかけに、昔の撮影風景などを語らう時間となりました。



「おにぎり」にまつわる思い出から演劇づくりをしました! 家族でお出かけした時の楽しい思い出、コンビニのおにぎりの包みを開けたら海苔が割れてしまったかなしい思い出、テニスをして疲れた時におにぎりを食べたら元気になった思い出。慣れ親しんだ「おにぎり」から、それぞれの思い出が飛び出し、たくさんの演劇が生まれました。



レポート 世田谷区立小学校6年生のための古典芸能鑑賞教室

日程:6月6日～7月5日 実施校数:世田谷区立小学校61校 協力:万作の会
「小学校古典芸能鑑賞教室」は、世田谷区教育委員会からの受託を受けて、世田谷区立小学校6年生を対象に、毎年実施している事業です。区内61校の6年生全員が「万作の会」の狂言師による狂言『附子』を鑑賞し、ワークショップに参加します。「ずか!ずか!ずか!!!」とのござりを引いたり、「めり!めりめりめり!」と垣根を壊したりといった所作も体験し、古典芸能を身近なものとして楽しんでもらう機会となりました。

6月開催実施校

6月6日(月)	高山小学校、給田小学校、船橋小学校、希望丘小学校
6月7日(火)	松籟小学校、代田小学校、松沢小学校、赤塚小学校
6月9日(木)	八幡小学校、九品小学校、奥沢小学校、東玉川小学校
6月10日(金)	塚戸小学校、千歳小学校、祖師谷小学校、山野小学校
6月21日(火)	京西小学校、用賀小学校、深沢小学校、桜町小学校
6月22日(水)	東深沢小学校、中町小学校、尾山台小学校、玉堤小学校
6月23日(木)	上北沢小学校、経堂小学校、鳥山北小学校、真蔵丘小学校
6月24日(金)	砧小学校、砧南小学校、明正小学校、喜多見小学校
6月28日(火)	池之上小学校、下北沢小学校、太子堂小学校、多摩小学校、代沢小学校
6月29日(水)	旭小学校、中丸小学校、駒沢小学校、三軒茶屋小学校
6月30日(木)	若林小学校、山崎小学校、城山小学校、桜小学校、世田谷小学校



レポート SPTラボラトリー 演劇WSラボ「キックオフミーティング」

日時:4月9日(土)13:00～16:00 場所:パブリックシアター稽古場
演劇WSラボ研究員:58名(演劇WSラボには演劇WS実践者・これから実践していきたいと思っている研究員が所属している)

今年度のSPTラボラトリーは、過年度に引き続き研究テーマを「演劇ワークショップを探る」として、「演劇WSラボ」を開講。学校で演劇WSを実践している人、児童館などで子どもたちと演劇づくりをしている人、学校の先生としてWSを活用している人、企業の中でWSを活用を検討している人など、さまざまな取り組みをしている人たちが集まっています。
4月9日のキックオフミーティングでは、それぞれの簡単な自己紹介後、昨年度のクラブ活動*の報告をしました。後半は、それぞれの現在の興味関心事、活動していく上で課題、課題と思っていることをグループに分かれて話し合いました。普段は個人で活動している人が多く、課題共有できる仲間がいること、そういう場としてラボが機能することの重要性を改めて感じさせられる会となりました。
この2年間はコロナ禍でラボ生が直接集まる機会を作ることがなかなか困難でしたが、今年度はレクチャーやゼミなど、ラボ生が集い、意見交換できる場を積極的に設けていく予定です。また、昨年に続き、今年度もクラブ活動を行います。2022年度は6つの新しいクラブが設立されました。*ラボ内で興味関心のあるテーマで集まったグループ活動のこと

2022年度ラボ研究生による6つのクラブ

- グリーンフェアクラブ
大きな悲しみ、喪失を抱えた人に対して演劇ワークショップにどんなことができるのか、できないかを検討。
- おやこふしぎ発見クラブ
親と子どもならではの関係性について改めて見つめなおすワークショップを探る。
- オンライン研究クラブ
オンラインWSで活用できること(ツール・ゲーム・プログラム等)を試していく。
- コーディネーションマインド・スキルをシェアするクラブ
学校でワークショップを行う際に、学校側とファシリテーター側をつなぐ「コーディネート」の役割について検討する。
- 学校に行けない/行かない子ども達のための演劇WSクラブ
学校に行けない、もしくは行かない子どもたちがどんな問題、課題を抱えているのかを考えながら、演劇ワークショップを通してできることを検討する。
- 感想クラブ
映像で鑑賞が可能な舞台芸術作品を見て、対話をする場を設ける。



～障害×地域×アートプロジェクト～

「極楽フェス'21」から広がる地域連携モデルの可能性について

世田谷パブリックシアターは、世田谷区内の施設やNPOなどの非営利組織と協力し、演劇やダンスを活用して、コミュニティのニーズや組織の抱える課題に取り組む「地域連携プログラム」を実施しています。2021年9月にその一環として開催された「極楽フェス'21」（下馬地区の社会福祉法人、町会など9団体と企画したアートプロジェクト）は、高齢化社会の中でアートを通じて地域のつながりを育む機会となりました。その中でも、好評だった「ともにやの部屋」「介助と障害を巡る旅～ゆうじさんちシアター」が再演されましたのでレポートいたします。新型コロナウイルスの影響により人数制限などを余儀なくされ、たくさんの方に観劇いただくことが叶わなかった「極楽フェス'21」ですが、1回のイベントで終わることなく次の展開が続き、地域の中での「演劇」の可能性を感じる機会となりました。

レポート



「ともにやの部屋」

日時：2022年4月23日（土）11:30～「ともにやの部屋～中川陽子さん」/13:30～「ともにやの部屋～黒田真史さん」
場所：世田谷ボランティアセンター 進行役：大道朋奈

「ともにやの部屋」は、施設職員と障害当事者の「自分たち（障害者）のことを地域の人たちに知ってほしい」という思いを受けてつくられた作品です。今回は、世田谷ボランティア協会主催の地域イベント「おたがいさまフェスタ 2022」のプログラムの一つとして2作品上演しました。1つは、昨年の「極楽フェス'21」で上演した「ともにやの部屋～黒田真史さん」。もう1つは、新作の「ともにやの部屋～中川陽子さん」です。両作品とも、障害のある方々に俳優がインタビューし、それをもとに彼らの人生を劇に仕立てました。黒田真史さんは18歳の時に交通事故で、中川陽子さんは36歳の時にくも膜下出血で高次脳機能障害となり、現在は「ケアセンターふらっと」というリハビリ施設に通所されています。公演本番では、「健常」といわれる体を持っていた彼らが何をきっかけに「障害」を抱え、その障害と共にどう生きて来たのか等を、たくさんの方々と共有しました。お二人の壮絶なライフストーリーは、時に生まれる笑いとともに、観た人の心に多くの問いを投げかけました。両作品の上演後、黒田さん、中川さんが登場し、観客との質疑応答を行って、お二人についてさらなる理解を深めてもらう機会を作りました。「自分たち（障害者）のことを地域の人たちに知ってほしい」という、「ケアセンターふらっと」の皆さんの思いがかなった場になりました。



レポート



「介助と障害を巡る旅～ゆうじさんちシアター」

日時：2022年5月28日（土）①14:00～②15:30～
2022年5月29日（日）③11:00～④12:30～⑤14:00～⑥15:30～⑦17:00～

場所：世田谷ボランティアセンター 参加費：1,500円 定員：各回4人 台本・構成：柏木陽 出演：岩原正典、山本雅幸

「ゆうじさんちシアター」は、下馬地域のアパートに住む重度脳性麻痺のゆうじさんこと、実方裕二さんにインタビューして作った参加型演劇です。世田谷ボランティアセンターの会議室をスタート地点とし、参加者はクイズに参加したり、映像を見たりしながら、最終的にゆうじさんのアパートの一室に足を運びます。ツアーに参加できる人数は、1回あたり4人。参加者はゆうじさん自身のこと、ゆうじさんとゆうじさんの介助者との関係性について思いを巡らし、とても濃密な時間を過ごしました。ツアーのゴール地点では、このツアーを通して感じたこと、考えたことをシェアしました。「ゆうじさんのように信頼できる人間関係を自分は築けているだろうか」「自身の介護経験を思い出した」「人に委ねるとはどのようなことだろうか」など、参加者一人一人が自身に深く問いかけるような感想が多く出ました。

